

－発表要旨・論文－

一般演題(2)

1. 大腸内視鏡検査時のペチジン使用による鎮痛効果の評価

社会医療法人 敬愛会 中頭病院 内視鏡センター

消化器内視鏡技師 ○前上門江美子、大城 広美

内視鏡センター 看護師長 呉屋 香

看護師 島田 進也

**【研究目的】**

大腸癌は死因の第3位となっている。沖縄県でも、男性2位・女性1位と上位であるが、大腸癌の受診率は、全国平均に比べ低い。当院では問診時に「周りに検査はきついとわられるがきついですか？」という質問や、検査後に「思ったより検査がきつかった」との声が多く聞かれる。中には「痛いからもう二度と受けたくない」と訴える患者もいた。痛みを軽減することで、安心・安楽な検査を受けられることが、受診率の増加につながり、大腸癌の早期発見・早期治療へと導くことが出来ると考えられる。そこで鎮痛剤（以下ペチジンとする）を導入し希望者に使用し、検査時の苦痛軽減につながるか調査した。

ペチジン使用者・未使用者を比較し、安楽に検査が受けられたか。また次回への検査意欲の有無を調査する。

**【方法】**

対象：大腸内視鏡検査（以下CFとする）を受けた患者。ペチジン使用群130名 未使用群50名  
方法：CF終了後、独自の痛みスケール（0～4）を用いたアンケート調査を実施。調査期間：H29 7月～10

**【結果】**

アンケートの結果よりペチジン未使用群では、男性は1の軽い痛み、女性は2の中等度の痛みが最も多く、使用群では、男女ともに2の中等度の痛みが最も多かった。

チジン使用群では、次回もペチジンを希望すると答えた人が男女共に90%以上であった。

**【考察】**

ペチジンを使用することで痛みの程度が軽くなる結果を予想していたが、実際はペチジン使用群・未使用群とも痛みの程度に差は無かった。そのことから、患者の開腹歴や腸過長症、痛みの域値や薬効の表れ方など、個人差があると考えられる。

次回の検査時にペチジン希望の有無に関しては、使用群では希望する方が最も多く、一方未使用群では大差はなかった。使用群ではペチジンを使用して検査を受ける方が身体的・精神的に安楽と感じたのではないかと考える。

次回検査希望の有無に関しては、未使用群・使用群ともに受けたいと答える方が多かった。受けたくないと答えた方は、未使用群では19.2%、使用群では10%という結果が出た。受けたくない理由として、CFの検査に伴う痛みだけではなく、羞恥心や下剤服用に対する苦痛などの要因もあるのではないかと考えられる。

### 【結論】

今後、内視鏡検査に関する情報提供を行い、選択肢の幅を広げ個々のニーズに沿った医療を提供しさらに受診率の向上、がんの早期発見・早期治療に繋げていきたい。

【連絡先：〒904-2195 沖縄県沖縄市字登川610番地 TEL：098-939-1300】